

9月号の特集は「災害への備え(「いつか」のために「いま」そなえる)」です。



奈良県知事

荒井 正吾

本年7月上旬の西日本豪雨では、200名を超える方がお亡くなりになりました。

日本は大雨が降るだけで多数の死者が出る国土だったのか、とも思いますが、死と生を分ける「備え」は何かあるはずだ、とも思います。死と生を分ける「備え」について、この際、徹底的に勉強し、奈良県に同じような規模の大雨が来ても、あれだけの死者を出さない「備え」をしようと固く決心しました。

奈良県にはあのような災害は起きないから大丈夫だとおっしゃる方がいます。県民の方々にもそのような気持ちがないわけではありません。しかし、あのような大雨が大和平野を襲えば、同程度以上の死者が発生するであろうことが十分考えられます。

大災害への奈良県の「備え」について、心を込めて考えを深めていきたいと思っていますが、「備え」の第一歩は、「備え」が要らないのでは、という甘い考えをきっぱり絶つことだと思います。

人権コーナー

毎月11日は人権を確かめあう日



ひかりちゃん てんいち先生

高齢者の豊かな人生

最近、娘たちを連れて、父と母が暮らす田舎に行く機会が多くなった。

父と母は、86歳と79歳の要介護認定者であるが、軽度であるため多少の介護サービスを利用しながらも、夫婦二人で何とか暮らしている。

私は介護保険関係の仕事に携わっていることもあり、公私ともども、高齢者の豊かな人生、高齢者の生きがいといったテーマについて考えさせられる場面に直面することが多い。

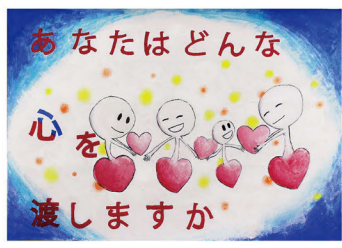
娘2人が、仕事や大学生活の合間を縫って遠路、父と母に会いに行ってくれる。そして、20代の女性にとっては興味も無いだらう退屈な話に、笑顔で傾聴。また、お世辞にも彩り鮮やかと言えない母お手製

の食事に「おいしい、おいしい」と笑顔。本音?お世辞? 「店屋物よりおばあちゃんの料理がいい」とおねだり。

日常あまり変化のない高齢者の暮らしの中に、満面の笑みがみちる時である。

高齢者の豊かな人生は、自身のアクティブな活躍のみならず、平凡な日常に、ちょっとした優しさ、気配り、ふれあいの種がまかれた時に、大輪の花を咲かせると感じる今日この頃である。

今月の
ポスター



葛城市立新庄中学校 3年
李 信成さん

今月の
標語

わすれがち 言葉や命の 大切さ

香芝市立真美ヶ丘西小学校 6年
なかにし りんか
中西 凜華さん

※学校名・学年・氏名は発表時のものです。

クイズ&プレゼント

正解者の中から抽選で

**「The Pair」の
スポーツデザイン
ソックス (P24で紹介) を
男女ペアで5名にプレゼント!**



※色・柄は選べません 提供: 奈良県靴下工業協同組合
(婦人物サイズ: 23~25cm・紳士物サイズ: 25~27cm)

締め切りは
9月30日
(消印有効)

○にあてはまる数字を教えてください。

Q 災害用伝言ダイヤルの番号は?

A ○○○ (ヒントは3ページ)

7月号の答えは“地域”でした。応募総数986件。

ハガキにクイズの答えと住所、氏名、年齢、電話番号、「県民だより奈良」の感想(良かったコーナー・取り上げてほしい話題・改善点など)を記入して、〒630-8501(住所記入不要)奈良県広報広聴課へ。

☎www.pref.nara.jp/30222.htmからも9/1以降応募できます。
※個人情報、プレゼントの発送以外には使用いたしません。